

回復と波及のプロセス

株式会社 建設企画コンサルタント フェロー会員 西中村 和利

1. まえがき

国内での高速道路建設と海外途上国での道路建設援助の経験から、現在社会が抱える複雑な問題解決方策として、ここでは「回復と波及のプロセス」に着目した提案を行っており、これを議論の一端としたい。ここでいう「回復」とは、大気、水質、土壌などの局地的な汚染や、地球温暖化といった広域的なものなど文明化によってもたらされた負の遺産から抜け出すことを意味する。また「波及」とは、先進国から途上国への技術、文明の移転を意味する。この2つのテーマにより、今後50年が意義あるものになるべくシビルマンの目標がセットされると考える。

2. プロセスの選択

表-1には、如何なるプロセスが選択されるべきかを記した。課題解決に参集されるべき専門家の母集団としてステークホルダーを認識し、解決の方針を区分している。

表-1 プロセス

課題→ステークホルダーを認識→同専門家知見→調和解→方針区分

3. 課題

表-2には、今日的課題を示す。同表には、先進国、途上国に対応した代表課題と地球規模の課題を示している。なお、課題間に階層関係があるが、ここではあえて理解を容易にすべく表現している。

表-2 課題

先進国（成熟）	途上国
（共通） 温暖化、砂漠化、廃棄物、汚染 希少種、移入種、環境ホルモン 資源疲弊、枯渇 過密（スプロール巨大都市）、過疎	
飽食、成人病、アレルギー疾 少子、高齢 高物価、低成長 高学歴、平均化	飢餓、疫病 多子、短命 低物価、低成長 低識字率

4. ステークホルダー

表-3は、ステークホルダーの階段表示である。課題が最終利用者の生活者から発せられること、また客体としての自然環境をも取り込んだ地球規模を意識して示している。

インフラは、施設のみならず制度も当然である。

企業、生活者を含めた課題解決のための専門家の母体を構築する。

キーワード：回復と波及、ステークホルダー、インフラ施設、社会制度、維持

連絡先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-23-1 TEL 03-5337-4060 FAX 03-5337-4090

表-3 ステークホルダー

A	天然自然資源 {大気, 大地, 水 (地下・地表), 河川湖沼, 海洋, 森林・・・}
B	社会施設インフラ {交通運輸 (公共鉄道, 道路, 港湾, 水路), 上下水道, 電力・ガス, 通信・・・}
C	社会制度インフラ (教育, 医療, 司法, 行政, 立法・・・)
D	企業 (1次, 1.5次, 2次, 3次)
E	生活者 (個人, 消費団体, NPO・・・)

5. 課題解決方針区分

表-4には、課題解決のための方針区分を示す。方針区分としては、マイナスに対する回復、不足に対する進展、膨大な先進国の既設インフラに対する維持の3区分である。

表-4 方針区分

A	回復, 修復	温暖化, 汚染, 砂漠化等自然資源にかかわるマイナス現象
B	維持	既存インフラ
C	進展, 改善	既存インフラ効率化, スクラップ&ビルド, 不足インフラ充足

6. まとめ

現在の複雑な問題解決には、天然自然資源の有限さを意識した上で、次の4つの視点、インフラ施設の専門家・社会制度の専門家・企業（生産者）、そして生活者（消費者・利用者）から各々を代表し得る者の参加により、先進国・途上国の課題に対して、調和解を得るプロセスを提案する。

表-5は、調和解の例である。

表-5 調和解の例

- * 自然（ローカル）、3R可能人工材料の構造
- * 圧縮・せん断応力構造
- * 地域完結型調達
- * IT駆使による経験則の技術転移
- * 熟年専門家の発意
- * 自然資源回復の1例として
1次産業（農・林・漁）兼業専門家